



# 技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 春季号<第147号> (令和8年4月15日発行)



県道熊本高森線 4車線化事業 (2026年3月開通)

2026年2月撮影



新阿蘇大橋 (2021年3月完成)

2026年1月撮影



南阿蘇鉄道 (2023年7月完成)

2025年11月撮影



熊本地震震災ミュージアム KIOKU (2023年7月完成)

2025年11月撮影

## 熊本地震から10年「創造的復興事業完了間近！」

2026年4月で熊本地震から10年になります。被害が大きかった益城町の復興まちづくり事業の県道熊本高森線4車線化区間(約3.8km)が3月に開通しました。

阿蘇地方へのアクセス道路は、国道57号北側復旧ルート(バイパス)及び国道57号現道部が2020年10月、国道325号新阿蘇大橋が2021年3月に開通し、鉄道はJR豊肥本線が2020年8月に、南阿蘇鉄道が2023年7月にそれぞれ開通しました。また、後世への継承として取り組んだ「熊本地震震災ミュージアム(KIOKU)」、「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」も完了しています。皆様から頂いたご支援・ご協力、本当にありがとうございました。

なお、熊本県のシンボルである熊本城の完了は、26年後の2052年度の予定です。

ぬまち 英二 (建設・熊本)

## 目次

巻頭言	1
声の広場	2
若手技術士の声	4
修習技術士の声	5
青年技術士交流委員会勧誘記事	5
土木遺産シリーズ(43)	6
ミニ特集	7

中央・統括本部情勢	11
委員会・部会報告	13
支部だより	18
CPD報告	19
会員ニュース	20
合格祝賀案内	21
協賛団体会員	23

# 佐賀の未来を創り、未来を守る社会資本整備

佐賀県県土整備部長 よこ お 横尾 ひでのり 秀憲



佐賀県では、「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」を基本理念に「安全・安心に暮らせる強靱な県土の実現」と「快適で活力ある“さが”づくり」を目指して県土整備に取り組んでいます。

人口が集中することなく、県全体にほどよく人が分散して暮らしており、特色ある歴史・文化・産業を持つ地域が点在している特徴があります。このため、地域や交流拠点を結ぶ広域幹線道路の整備は、本県の価値をさらに発展させ、成長の基盤となる社会資本であり、災害時には、避難や救急救援物資の輸送など「命をつなぐ道」として重要な役割を担っています。現在、有明海沿岸道路と佐賀唐津道路を接続する「Tゾーン」の整備に重点的に取り組んでおり、令和7年11月には（仮称）佐賀JCT「ジャンクションT」の工事に着手し、整備を更に加速させていきます。また、国が整備を進める大川佐賀道路では、令和8年度に川副IC（仮称）までの供用が示されるなど早期整備に向けて着実に前進しています。今後も、人やモノの交流を促進し、地域に活力を生み出す、広域幹線道路の整備を進めてまいります。

一方、本県では激甚化・頻発化する豪雨災害に備え、佐賀県内水対策プロジェクト「プロジェクトIF」をはじめとした、先手先手の防災・減災対策に取り組んでいます。令和元年及び3年に甚大な被害が発生した六角川流域では、令和7年3月に国・県・関係市で策定した「六角川流域水害対策計画」に基づき、甘久川の河川整備に着手しており、牛津川遊水地や六角川洪水調整池の整備を、国と連携して進めています。また、「城原川ダム建設事業」では、水没地域の移転補償が進んでおり、地域の皆様の想いに応えるためにも、安全・安心に暮らせるまちとなるよう全力で取り組んでいきます。

最近のトピックスとして、令和8年3月、吉野ヶ里歴史公園で、歴史公園初のPark-PFIによる施設「スノーピーク グラウンズ 吉野ヶ里」が開業しました。当施設は泊まれる体験型複合施設となっており、160サイトのキャンプフィールドのほか、物見やぐらや竪穴住居をイメージしたコテージとキャビン、地元食材を活かしたレストランなどが備えられています。豊かな自然に囲まれながら、佐賀の悠久の歴史や地域の持つ魅力を楽しむことができる、新たな九州の感動拠点となることを期待しています。

また、令和8年10月には、国際自転車ロードレース「ツール・ド・九州」が開催されます。現在、肥前名護屋城がある波戸岬周辺からスタートし、ジャック・マイヨールが愛した海を臨む「ルート・グランブルー」や唐津城、虹の松原などを堪能しながら、福岡へと抜ける唯一無二のルートで準備を進めております。

さらに、令和8年度に、肥前鹿島駅新駅舎の建築工事に着手します。「non-station」打ち出すべきは「Relation」をキーワードに「沿線えきやど」を起点に様々なところに宿泊する面的なホテルという新たな概念で、単なる駅ではなく、スロートーリズムの拠点になるよう取り組んでいきます。

令和10年3月25日から5月28日には、「第44回全国都市緑化フェア from SAGA」を開催します。「みどりとあおのいぶき」をテーマに、同時期から開催する「山の博覧会（SAGA JAM）」とともに、次代を担う子どもたちをはじめ、多くの方々が緑を楽しみながら、自然との共生や環境問題について考え、行動するきっかけともなるよう準備を進めていきます。

社会資本整備の担い手であり、地域の守り手でもある建設業は、県民の命と暮らしを守るため、なくてはならない存在です。これからの建設業を担う若い方々に建設業の魅力を伝えていくため、小学生を対象とした親子現場体験会や、中学生向けの電子コミック、工業系高校生を対象としたICT施工体験・合同企業説明会など、情報発信に取り組んでいます。また、建設産業で働く女性が自分らしく働き続けられる未来を目指し、女性技術者のネットワーク「SAGA女子Con～建設未来の会～」を立ち上げました。女性技術者の活躍の発信や、会員同士での交流・情報交換会などを通じて、県内の女性技術者が更に輝ける環境を目指します。これらの取組を通じ、県内建設業が将来にわたり持続可能な産業となるよう、引き続き建設業の担い手確保に努めていきます。

佐賀県が持つ本物の価値を次の世代に継承していくためにも、佐賀の未来を創り、未来を守る社会資本整備を着実に進めていきます。「スノーピーク グラウンズ 吉野ヶ里」をはじめとした挑戦を続ける佐賀県に、是非お越しください。

(E-mail : kendokikaku@pref.saga.lg.jp)

I

### スタートアップで働く技術士

まつせ ゆうだい  
松瀬 裕大  
(機械・福岡)



#### 1. はじめに

スタートアップという環境で働く中で、社会との接点が身近になるにつれ、技術者としての判断について立ち止まって考える機会が増えてきました。現在の会社に所属して8年目となる企業内技術士として、昨年、技術士となり技術士会に所属した立場から、技術士を目指すに至った背景や、日々の業務の中で感じてきたことを、少し振り返ってみたいと思います。この経験の共有が、スタートアップに関わる方や、これから関わろうとしている方の参考になれば幸いです。

#### 2. 水産養殖×テクノロジー

現在所属しているウミトロン株式会社の事業内容と、その中で私が担当している業務について紹介します。

ウミトロンは、成長を続ける水産養殖にテクノロジーを用いることで、将来人類が直面する食料問題と環境問題の解決に取り組むスタートアップ企業です。シンガポールと日本に拠点をもち、IoT、衛星リモートセンシング、機械学習をはじめとした技術を用い、より安全で、人と自然に優しい「持続可能な水産養殖を地球に実装する」ことを目指しています（公式HPより）。

私は、主にAI・IoTといった技術を活用した給餌機＝餌やり機の設計を行っています。

水産養殖の現場という過酷な海洋環境に耐えうる設計とするため本来であれば入念に時間をかけたいところですが、スタートアップとしてスピード感をもって製品を世に出すことも求められます。そのため、時間やコストに制約がある中で、なぜその設計や仕様を選んだのかを説明できることの重要性を意識するようになりました。

こうした経験を通じて、設計の結果だけでなく、判断に至る考え方そのものと向き合うようになりました。

#### 3. スタートアップで働く中で感じた課題

設計における判断の考え方を意識するようになったことをきっかけに、個々の設計判断にとどまらず、

技術者としての判断のあり方そのものについても考えるようになりました。スタートアップという環境で働く中で、設計だけでなく、事業や運用、顧客との関係など、判断に関わる要素が増えていったことが背景にあると考えています。

日々の業務の中で、自身の判断が妥当なのか、別の立場の技術者であればどのように考えるのかと立ち止まる場面が増えてきました。ウミトロンは組織規模が小さいため、一つの判断がそのまま製品や運用に反映される場面も多く、視野が狭まっていないかを意識するようになりました。

また、技術的な正しさに加えて、その判断が社会に対して説明可能であり、倫理的に妥当であるかという視点の重要性も意識するようになりました。こうした経験から、自身の判断を外部の視点で見直す必要性を感じ、企業の枠を越えて技術者同士が意見を交わせる場として、技術士制度、そして技術士会に魅力を感じ、技術士取得を目指すようになりました。

#### 4. 技術士会に期待すること

前述した経験を踏まえ、スタートアップで働く技術者を取り巻く環境について、自身の立場から考えてみたいと思います。

近年、スタートアップは新しい技術や価値を社会に実装する担い手として、重要な役割を果たす存在となっています。私自身、スタートアップに身を置く中で、顧客や社会との接点が増え、技術者としての判断に関わる視点が広がっていくことを実感しました。その結果、判断そのものの重みをより意識するようになったのだと思います。これは、特定の組織形態に起因するというよりも、技術と社会との関係の持ち方によって意識されるものだと感じています。

技術士会は、専門分野や立場の異なる技術者が集い、判断の背景や考え方について意見を交わす機会を得られる場の一つだと考えています。まだ技術士としては新入りではありますが、スタートアップの現場で得た経験を技術士会で共有しつつ、そこでの議論や考え方に触れながら、自分なりに活動にも関わっていければと考えています。こうした関わりを通じて、技術者としての判断をより確かなものにつつ、微力ながら技術士会の取り組みにも貢献できれば幸いです。

所属：ウミトロン株式会社/松瀬技術士事務所  
(E-mail: yudai.matsuse@umitron.com / yu@matsuse.tech)

## Ⅱ

### CPD実績登録制度 制定から5年

たかあぜ ひろし  
高畦 博

(建設、総合技術監理・鹿児島)



#### 1. はじめに

2021年4月の大臣通知によって、技術士CPD活動実績登録制度（CPD登録制度）が始まった。これにより全ての技術士がそのCPDの研鑽状況を公的に記録できる場が確保された。また、この制度活用策として、CPD達成度に応じて技術士を公表する取り組みや、一定期間推奨されるCPDを取得している技術士については「CPD認定」という称号の使用が認められるようになった。制度制定から5年が経過した中で、気づいたことなどを述べてみたい。

#### 2. CPD登録者の推移について思うこと

CPD登録制度では、技術士のCPD登録達成状況によって、20単位以上取得している技術士を「基準」、50単位以上の技術士を「推奨」として、それぞれ氏名、登録部門などを本会HPで公開している。

CPD登録制度が制定された頃は、本会でもHPやYouTube動画などで、積極的に広報活動が展開されてきたが、最近は登録者数が低迷しているのではと思っている。本会公開サイトから基準・推奨に該当する技術士数を201年度から2025年度まで調べてみた（表-1）。表から制定当初をピークに年々減少している。

表-1 技術士CPD活動実績登録者数(基準・推奨)の推移(人)

	2021	2022	2023	2024	2025
基準	814	619	339	207	142
推奨	1,564	2,244	2,383	1,870	1,511
計	2,378	2,863	2,722	2,077	1,653

本会HPから作成（2026.2）

登録方法の図表を使った手順の説明、年度末にHPで登録の確認を促す情報発信をおこなうとか、会員や制度登録者に対して登録を促すメールを発信して確認してもらうなどで展開してはと思う。

登録方法は簡単である。会員であればボタンを数回押すだけで登録できるのだから。

#### 3. CPD登録制度存在の周知状況について

国土交通省、農林水産省などの公共事業では、入札にあたって、落札を希望する金額を価格点とし、参加企業の経営能力・技術力、業務を担当する技術者である配置予定管理技術者（以下「管理技術者」）

の技術力などを点数化して、それらの総合点が高い落札者を決定するという総合評価落札方式が採用されている。

管理技術者の技術力では、保有資格、表彰実績などについて、資格の重要性、表彰実績、CPD取得状況などを点数化して評価している。保有資格では技術士が最も高く評価されている。農林水産省では、「技術士（CPD認定）」を取得している配置予定技術者には加点評価している。このことについては、「技術士制度改善への歩みと課題 海外との比較より…新妻秀規」月刊「技術士」2024.5で紹介されている。本文では、技術士（CPD認定）を加点評価した結果、農業部門の「技術士（CPD認定）」の数が約10倍に急増したと報告している。

国土交通省でも早くから総合評価落札方式で入札が実施されている。管理技術者の資格については、ここでも技術士は他の学協会の資格より高く評価されている。CPD取得状況については、基準、推奨などに区分して点数化し評価している。

気になっていることがある。技術士のCPD登録制度の存在が国などの発注機関に周知されているのだろうかということである。というのは、管理技術者の資格登録団体とは異なる学協会が発行したCPD取得証明書で受理され評価されている場合があると聞く。それぞれの学協会では、設立趣旨に基づいて独自に基準を設定してCPDを管理・運用している。学協会によっては、他の協会で取得したCPDではその学協会の基準に合わない場合は認めないところもあると聞いている。

このことから、発注機関では技術士のCPD登録制度の存在が周知されていないのではないかと考えているところである。もし仮にこの制度の存在が知られていないのであれば、これら機関だけでなく、広く一般の方々にも制度の存在を、地道に継続的に周知していく努力が必要と考える。

#### 4. おわりに

2022年度に技術士CPD登録制度が制定されて5年が経過した。登録者数の減少、この制度の存在の浸透度を見るとこのままでは形骸化していくのではと危惧している。多くの事例から制度の周知、浸透については、社会に定着するまでに相当な時間がかかっている。改めてCPD登録制度の現状を考えるとともに、社会により広く浸透していくよう本会の各委員会が横断的に連携するとともに、本会会員が制度を理解し、先頭に立って周知していく努力が必要であると考えている。

所属：大福コンサルタント株式会社  
(E-mail: hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp)

### 技術士試験と自身の 変化

ますだ はるや  
**益田 晴也**  
(森林・大分)



#### 1. はじめに

私は、高専を卒業後、大分県の建設コンサルタンツ会社に入社し、これまで河川・砂防や森林治山における測量・設計に従事してきました。近年ではi-Constructionの推進と共に、様々な技術の進歩が見られ、益々おもしろい業種になってきたと感じております。今回は、私の社会人になってから技術士試験合格までの体験談や資格を通じて得られたもの、合格してから感じたことなどを記載させていただきたいと思います。これからの若手技術者の技術士試験挑戦へのきっかけになれば幸いです。

#### 2. 技術士の取得まで

社会人になった当時は、業務時間以外は遊ぶ時間を確保することに必死で、学生気分が抜け切れていませんでした。そのため、勉強や資格を取得することもなく日々を過ごしている内に、高専の後輩や大学生の新卒が入社し、自分より先に技術士一次試験に合格していきました。自分だけ名刺に資格が書いておらず、その時、私は初めて焦りを感じました。その頃には先輩や上司の方々からも「そろそろ何かの資格を…」といった声が出ており、有給等を駆使して勉強をして技術士一次試験を合格しました。

これでようやく自分も名刺に資格を載せれるぞ！と思っていましたが、そこで上司に言われたのが、「おめでとう」でも「よくがんばったな」ではなく、「技術士補には登録をするな。そのまま技術士をとれ」でした。私は「これは嫌味ではなく、ここで満足するんじゃなくて上を目指せ」と言われているんだとすぐに理解しました。

しかし、技術士二次試験がどれほど難しいかは理解しており、まだ自分には無理でしょ…と思いつつ、朝、夜、土日に基準書と林野庁のホームページを読んで勉強する習慣をつけ、できる限りの努力をした結果、技術士二次試験に合格をすることができまし

た。筆記試験の合格通知が来た日から、口頭試験の日までの間は、今までの人生で最も自己学習に取り組んだ期間だったと思います。合格した今も、受験当時ほどではありませんが、勉強する習慣は続けており、この資格を通じて意識の変化があったことは間違いなく感じています。

#### 3. 技術士試験から得られたもの

技術士試験は7月の筆記試験を突破するための「専門的学識」、「問題解決能力」を身につけるための勉強をされると思います。これらの勉強は専門分野の知識として大いに自分の糧になったのですが、技術士試験の真髄は口頭試験にあると感じました。口頭試験では、技術士に求められる資質能力のうち「マネジメント」、「評価」、「コミュニケーション」、「リーダーシップ」、「技術者倫理」、「継続研さん」の項目を主に質問されます。利害関係者との意見とりまとめ、意思疎通、業務の振り返りや公益確保など、これまで遂行してきた業務に対する取り組み方が技術士として相応しいかを問われる場です。口頭試験の対策を通じて”ただ業務をこなすだけの技術者”では、技術士にはなれないことを痛感させられました。

コンピテンシーについて、普段の業務を振り返ると、技術士を取得している上司は皆、これらを意識して業務をこなしていたことがすぐわかりました。1人の技術士となった今、私も若手技術士にそういった姿を見せられるよう意識して業務を遂行していきたいと感じています。

#### 4. 技術者として

今回は森林部門にて合格することができましたが、建設部門での受験も挑戦したいと考えており、まだまだ私の海の日には「挑戦」の日々になりそうです。

専門とする森林・建設分野における基礎知識や技術の習得は必須の課題である中、進化し続ける技術の中で一人の「技術者」として、少しでも先端で動けるように、新技術に関する自己研鑽も続けていきたいと思っています。

所属：協同エンジニアリング株式会社  
(E-mail : masuda@kyodo-cec.co.jp)

## 修習技術者の声

### 技術士への挑戦

みづかわ まみ  
水川 真美  
(建設(修習)・長崎)



私は建設コンサルタント業に携わって、営業補助や積算業務を2年、設計業務に従事してからは3年弱となります。それまでは、建設コンサルタント業とは無縁の仕事に就いていましたが、たくさんの出会いがあって今の会社にお世話になっています。

設計部に所属した時は、年齢も40代半ばで設計業務未経験だったので、少しでも役に立ちたい、受験できる資格はとるべきと思い、技術士一次試験の受験を決意しました。まず、過去問に挑戦することから始めましたが、すべての問題や解説がまるで呪文のように思えて理解するのに大変苦労しました。日常の業務も初めての作業ばかりで覚えることが山程あり、勉強との両立にはかなりの体力と根気が必要でした。それでも、周りの方々の協力もあってなんとか無事に一次試験を通過することができました。現在、実務では上司の指導のもとで主に道路設計

業務に携わっています。コントロールポイントを考慮しながら道路線形を決定し、縦横断計画、排水計画、舗装構成など、対象地域の特性を踏まえて最適な路線を計画していくなど、面白いと感じることも増えてきました。業務を進めていく過程で、経験不足、技術力不足を痛感し何度も挫折そうになりますが、これを使い切ってこそ成長できるのだと信じています。

また、日々の業務に精一杯で二次試験の勉強が後回しになりがちですが、有難いことに私の所属する設計部では月1回の勉強会が行われます。そこでは、二次試験に向けて過去問の分析と活用、効率的な学習計画と時間の確保などのアドバイスを頂いたり、毎回事前に課題が与えられ、土木技術者としての視点から回答をそれぞれ発表します。自分だけでは得られない情報や他の技術者の考えを聞ける貴重な時間です。技術者として走り始めたばかりの私が二次試験を通過することが、どんなに困難なのかは理解していますが、諦めずに自己研鑽を継続し、知識と経験を積み重ねて、いつか技術者として胸を張れるようになりたいです。

所属：株式会社サンコー技研  
(E-mail: m.mizukawa@sanko-g.jp)



## 九州本部青年技術士交流委員会 メンバー募集案内

九州本部青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下（やる気があれば何歳でもOK！）のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第3の交流の場です。様々な部門の技術士の相互交流を通して自己啓発・社会貢献・人脈形成など様々な経験・成長を実感できるはず！

合い言葉は「できる人が、できる時に、できることを」とし、楽しみながら様々な活動をしています。あなたも一緒に活動してみませんか？

### 活動の三本柱

#### 研鑽活動

- CPD
- 見学会
- 夏休み自由研究
- 公開講演会
- 研鑽会 など

#### 普及活動

- 技術士制度説明講義
- JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義)
- 女性技術者・女子学生懇談会 など

#### 交流活動

- 合格祝賀会
- 納涼会
- 忘年会
- ゴルフ大会 など

応募の詳細は  
こちらから！



QRコード

問い合わせ先: kyusyu.seinen.pe@gmail.com 担当: 大川

応募フォームURL: <https://bit.ly/3fxXsnv>

## 土木遺産シリーズ (43)

### 針尾無線塔(針尾送信所) (長崎県佐世保市)

ひさの いさお  
**久野 功**

(建設、総合技術監理・長崎)



針尾無線塔は針尾送信所とも呼ばれますが、地元では「無線塔」と呼ばれるため、以下「無線塔」と呼称します。無線塔は、4年の歳月をかけて大正11年(1922年)に長崎県佐世保市針尾中町で竣工した高さ135~137メートルの鉄筋コンクリート造塔3基からなる無線施設で、平成25年には国の重要文化財に指定されています。

なお、文化庁国指定文化財等データベースには、『旧佐世保無線電信所施設は、わが国現存唯一の長波無線通信施設として、高い歴史的価値が認められる。また、大正時代におけるわが国最高水準のコンクリート技術を示すものとして、土木技術史上においても重要である。』

と紹介されています。

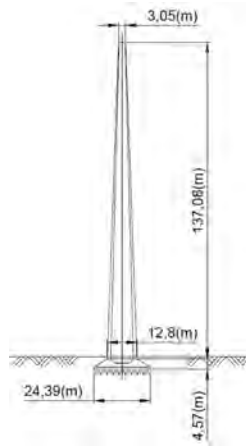


図-11号塔の寸法



図-2無線塔位置図(引用元Google map)



写真-1無線塔の3本柱(西海橋公園側から撮影)

無線塔は有名な「ニタカヤマノボレ」とおり、戦前は帝国海軍、戦後も平成9年(1997年)まで海上自衛隊および海上保安庁の無線施設として運用されていました。そのため、塔の頂上には、「かんざし」と呼ばれるアンテナの三角形鋼材が1997年頃までは残っていたようです(現在、撤去されています)。

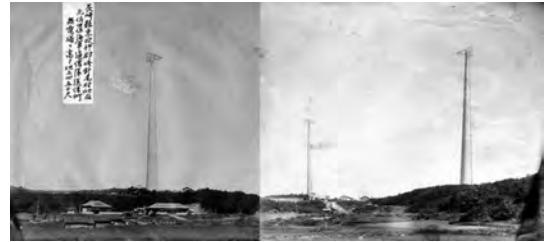


写真-2頂上にあった「かんざし」  
(引用元:佐世保市HP「旧佐世保無線電信所」)

軍事的な通信施設だった跡は、現地公開されている施設や構造物からも確認できます。また、現地にはボランティアガイドの方もおられ、見学の際は無線塔にまつわる建造やこれまでの経緯を詳しく聞くことができます。



写真-3無線塔内部の巻揚げ機械

無線塔は2022年12月以降劣化状況や耐震性などの調査が行われ、2023年9月に1号塔の基礎の形状を確認するための試掘場が一般公開されました。



写真-4公開された基礎部(掘削部は鋼矢板で土工)

一般的にコンクリートの寿命は100年とも言われますが、無線塔の構造体はまだ健全であるとされています。本地への訪問は、100年以上も昔に巨大で高度なコンクリート技術を確認していた先人の偉業に感服する場所となります。

所属:株式会社太平設計  
(E-mail: hisano.sin235@gmail.com)

## 安全な九州の 山歩きで機能維持

さだともみ としゆき  
佐田富 敏行  
(建設・福岡)



私は佐賀県で生まれ育ち、北九州市役所において、河川、都市開発、道路などに携わりました。趣味は、40代から始めた山歩きで、歩いた後の温泉が楽しみで、九州の山を中心に登ってきました。

定年退職後は、全国の山を歩きたいと夢見ていた頃（小生56歳の時）に、東日本大震災が発生しました。発生から数か月後、私は被災地に派遣した土木技術者を慰労するために被災地を訪問しました。被災地は、河川も道路も橋梁も損壊していました。損壊したインフラは、設計条件と技術基準類に基づき整備されたはずですが、インフラの脆弱さと津波の破壊力の大きさを痛感しました。

60歳で定年退職となり、一念発起して宮城県気仙沼土木事務所へ向かいました。土木職員の数に対して、業務量が膨大でしたので、遅くまで残業して、ほぼ毎日居酒屋へ通い、仮設寮（四畳半）に帰って

寝るといった生活をしていました。そんな中で、唯一の楽しみは、週末の山歩きと温浴施設での入浴でした。

ある日、気仙沼から1時間程度で行ける室根山（岩手県）を単独で登っていた時に、途中で子グマと遭遇したのです。私は、九州の低山を中心に歩いていましたので、クマ鈴やクマよけスプレーは携帯していません。登山道で出会った人から「子グマのねきにゃ、親グマがいるがら、あぶねえ。はやぐ山さ降りれ」と言われ、急いで逃げるように下山しました。地元出身の同僚に子グマの話をしたら、室根山にはツキノワグマの生息域があるとのことでした。

今年はクマの出没・被害が深刻化しておりますが、室根山では今年も13件のクマの出没が記録されています。あのどぎ、助かって、いだったー！

自然災害の発生時期と規模を予測することは困難です。九州7県を結ぶ鉄道ネットワークの機能維持・向上のためには、鉄道施設の事前防災が不可欠ですので、まずは初めに、クマのいない九州の山歩きで自分自身の機能維持・事前防災に努めています。

所属：JR九州コンサルタンツ株式会社  
(E-mail : t.sadatomi@jrqc.co.jp)

## AI時代における 人の役割

つるた やすたか  
鶴田 靖孝  
(電気電子、総合技術監理・北九州)



AIは膨大なデータを瞬時に生成し、組み合わせ、人では到底到達できない速度で答えを提示します。しかし、AIの回答は本質的に「データ」であり、そこには文脈も価値判断もなく、ただ数ある可能性の中から提示された“素材”が並んでいるだけです。

素材は素材として価値がありますが、それを「何のために使うのか」、「どの方向へ向かわせるのか」という視点を欠けば、むしろ社会を混乱させ、時に破壊を引き起こす力にもなり得ます。

だからこそ、人の介入は不可欠です。

人はデータを取捨選択し、目的に照らして意味づけ、文脈を与えることで初めて「情報」が生まれます。情報はさらに経験や倫理観、社会的価値と結びつき、時には失敗から学び「知識」へと昇華し、最終的には判断と行動を導き知恵になります。

このプロセスこそ、AI時代における人間が担うべ

き核心的な役割です。

ここで「足るを知る」という言葉が再び意味を待ちます。AIは無限にデータを出力し続けることができます。しかし、人が無限の出力をそのまま受け取ってしまえば、判断はかえって揺らぎ、社会の基盤も不安定になりえます。「何を選ぶのか」だけでなく、「何を選ばないか」こそが価値を生むのです。その選択の知恵がなければ、情報の洪水は文明の発展では無く破壊に向かう可能性すら考えられないでしょうか。

AIは強力な道具です。しかし、道具が強力であるほど、使い手の心構えと倫理が問われます。AIが生み出す膨大なデータを、社会の調和に資する情報へと変換する作業——そこには人間ならではの価値観、文化、歴史、そして未来への責任が込められています。

つまり、AI時代において、人は“知識を作る存在”として、これまで以上に重要な役割を担うこととなります。AIが提示する無数の可能性から、社会にとって望ましい未来を選び、形にすること。その作業こそがAI時代における人の役割となるのではないでしょうか。

株式会社クラフティア グリーンイノベーション事業本部  
(E-mail : tsuruta.yasutaka.iu@kuraftia.com)

## スポーツ観戦と 家族の絆

やまぐち ひろたか  
**山口 敬貴**  
(森林・佐賀)



私の趣味の一つにスポーツ観戦があります。

佐賀県内にはサッカー J2のサガン鳥栖、バスケットボールB1の佐賀バルナーズ、バレーボールSVのSAGA久光スプリングスという三つのプロスポーツチームがホームタウンを構えて地域のスポーツを盛り上げていて、私も妻と一緒に地元チームの試合観戦を楽しんでいます。

私が特に応援しているのが、サガン鳥栖と佐賀バルナーズです。ホームゲームの日には、街中に多くのサポーターやブスターと呼ばれるファンが集まり、街の空気も次第に熱を帯びてきます。「今日も熱い戦いが始まる」と胸が高鳴る瞬間です。

試合会場周辺は明るく開放的で、試合の日にはキッチンカーが並び、お祭りのような雰囲気です。会場内に入ると、華やかな演出と観客の熱気に包まれ、試合が始まると気持ちはどんどん引き込まれていきます。思いっきり声を出して応援していると、

日頃のストレスもどこかへ飛んでいき、試合が終わる頃には心がすっと軽くなって、選手たちの熱いプレーに元気をもらっています。

また、アウェイゲームなどで会場に行けない日には、テレビの前が私たちの“もうひとつのスタンド”になります。画面に向かって声をあげたり、得点シーンで思わず立ち上がったたり、そんな時間がすっかり日常になりました。

特に、サガン鳥栖は私たち家族にとって特別な存在です。まだ子どもたちが小さかった頃、家族で応援に行くのが楽しみでした。声を枯らして応援し、ゴールが決まるたびに子どもと抱き合って喜んだあの瞬間は、今でも鮮やかに思い出されます。

今では子どもたちも離れて暮らしていますが、会話の中にサガン鳥栖の話題が出ると、当時の思い出がふっとよみがえり、スポーツ観戦を通じて育まれた家族の絆を感じます。

今年は、九州内のJ2・J3の垣根を超えた対戦も設けられる「Jリーグ百年構想リーグ」という特別な大会が行われていますので、近県へのアウェイ遠征を楽しみにしています。九州各県の多くの皆様にも佐賀に足を運んでいただき、佐賀のスポーツシーンの熱気を感じていただけたらと思います。

所属：西日本総合コンサルタント株式会社  
(E-mail : yamaguchi-h@nisicon.co.jp)

## 森林ボランティア としての活動

やまもと ともひこ  
**山本 奉彦**  
(農業、建設・長崎)



昭和30~40年代、私が生まれた地域では杉や桧の植林が盛んであった。「お前が家を建てる頃には、この木が立派に育っている。」祖父はこう言いながら、急斜面での重労働も厭わず、日々汗を流していた。家族で育てた木で家を建てることを夢見て、子供の頃は祖父の傍らで間伐や下枝打ちを手伝っていた。

それから随分年月が経ち、転勤毎の引越を負担に感じ、家が欲しくなった。いよいよ伐期到来と思ったが、祖父が亡くなってから手入れをしておらず、材質もいまひとつ。莫大な費用を負担しなければ、搬出や製材を引き受けてくれる業者もなく、結果、軽量鉄骨造を購入した。以後、山に入る機会は殆どなく、台風による倒木や猪被害もあり荒れ放題となった。祖父母や両親に対する後ろめたさと、息子たちにこのまま引き継ぐことに対する申し訳ない気持ちが残っていた。

数年前、故郷の森林ボランティア団体に入会し、間伐の機会を得た。予想以上に倒木や立枯木が多く、雑木や蔓が生い茂る急斜面の作業は運動不足の私には重労働であったが、遣り甲斐と達成感は格別であった。会員各位の協力と森林組合の方々の技術で、3年目には鬱蒼とした山にも陽が差して明るくなった。

雲仙温泉街の麓に位置し、日本の棚田百選にも選ばれた自然豊かな岳地区の里山保全を目的に、平成16年に設立された「温泉四季の岳(うんぜんしきのたけ)」の活動の一環である。管理者不在の人工林の整備と、集落や県道沿線へのサクラやモミジの植栽が活動の柱である。正会員8名中5名が目的や趣旨に賛同して集まった集落外の住民であることが特徴である。

これまで各種事業を活用し、設立以来約25haの森林整備と広葉樹を3,000本以上植樹した。満開のサクラやモミジの紅葉で彩られ、集落は一層美しくなった。

斜面の穴掘りや苗木の運搬、植樹後の草刈りや蔓の処理など、決して楽な作業はないが、70代の先輩方の一生懸命な姿、美味しい山の空気と水、そして、先輩方との何気ない会話が私の楽しみになっている。

所属：扇精光コンサルタンツ株式会社  
(E-mail : t.yamamoto@ougis.co.jp)

## 趣味の新聞投稿

いさみ ひでただ  
**勇 秀忠**  
(建設・熊本)



36歳から地元熊本日日新聞「読者ひろば」へ技術士として投稿を続けている。昨年は、特集「戦後80年」と「昭和100年」への投稿が掲載された。紙面の都合で「戦後80年」への投稿記事を皆さんへ紹介したい。

私は戦争体験者ではないが、先の大戦では私の祖父も戦死している。鹿児島県の知覧特攻平和会館、福岡県の大刀洗平和記念会館をこれまで数度訪れた。展示されている零戦などを見るたびに、こんな薄っぺらな機体ではどうにもならなかったに違いないと心の中でつぶやいている。恋人や母への思いをつづった手紙には、胸が熱くなり涙がでる。

平和な時代に生きているわれわれには、座席中央の操縦かんを握りしめ敵艦に体当たりしていった若者たちの心情はわかるはずもないが、多くの犠牲の上に今の日本があることを忘れてはならない。戦争

の悲惨さや命の尊さを、戦後を生きる者として確認し、二度と戦争をしない、させない教育が必要だと感じる。

日本被団協がノーベル平和賞を受賞した。核兵器廃絶への日本の立ち位置を明確にするとともに、平和国家を堅持し、一人一人ができる範囲で戦争の悲惨さを後世に伝えることこそが日本人としての責務である。平和を希求する国として世界をリードしなくてはならないと強く感じる。(令和7年3月2日：朝刊)

以下少し紹介、特集：昭和100年のタイトルは「肘まで砂に・・・タコ捕り熱中」・・・砂の中に潜むタコを探し出し、肘まで差し入れる。空洞を確認しながら指先を進めると・・・

最後に、いまはピザ作りに励んでいる。それで「ピザ窯を自作友人と楽しむ」で投稿掲載された。・・・11月の連休に友人2人が遊びに来て、自宅のピザ窯でピザを焼いて楽しんだ。4月に植木(熊本市)から実家に帰った時、一つの目標を持った。それは自宅にピザ窯を作り、年内にピザ作りができるようになることだった。・・・いつの日か、上記2編も紹介したい。

株式会社ウラタ・シビル・コンサルタント  
(E-mail: h-isami@urata-cc.jp)

## 「宮崎海岸市民談義所」とは？

かんだ としひろ  
**神田 稔弘**  
(建設、総合技術監理・宮崎)



宮崎の美しい海岸線、大好きという方も多いですね。宮崎の浜を守るために市民談義所という集まりがあります。その歴史は意外と長く、2007年10月に発足した「海岸勉強会準備会」から始まり、その後、計15回の「海岸勉強会」や計5回の「懇談会」を重ねて初期の議論や情報共有を行い、2009年4月に現在の「市民談義所」がスタートしました。それから16年以上も定期的開催され続け、2026年3月でなんと第62回を迎えました。もともと海岸の景色に関心があった私も、途中からこの活動に参加させてもらっています。

最近(特に第50回以降)の談義所では、漁業との関わりなど社会的な制約から、事業計画が大幅に見直されるといいう難しい局面を迎えています。延長300mの突堤を作る計画から、小さな突堤群への変更になり、事業期間も延びてしまいました。

そこで、現在はワークショップ形式を取り入れ、「人工物ばかり増えて、肝心の砂浜は回復しないのでは？」という市民の皆さんの心配に真っ正面から向き合っています。また、住吉エリアや動物園東エリアといった地区ごとの具体的な対策や、今後の効果をどう検証していくかについて、専門家を交えて深く踏み込んだ議論をしています。

すでに一部の小突堤は工事が始まっていますが、本当に海岸(海浜)を守るためには、突堤を作らない別の方法の検討や、作る場合のデザインなど、これからも話し合うべきテーマが山積みです。最近では近くの高校生が参加してくれて新しい風が吹き始めていますが、基本的には「いつものメンバー」になりがちなのが現状です。

宮崎の大切な海を守るため、ぜひもっと多くの市民の皆さんに気軽に参加してほしいな、というのが私の強い願いです。



国土交通省宮崎河川国道事務所の宮崎海岸市民談義所HPより  
所属：株式会社エム・ケイ・スリー  
(E-mail: pe.kanda1958@gmail.com)

## もう一つの趣味

いうち よしひと  
**井内 祥人**

(フェロー、森林、博士(農学)・鹿児島)



私の趣味はクラシック音楽鑑賞である。趣味歴は60年になる。しかし最近、「論文執筆」も、もう一つの趣味になってきたのではないかなと思うようになってきた。県庁退職後、論文を本格的に執筆するようになって12年になる。論文作成のプロセスは既往文献を読み、課題を見だし、それに見合うデータを収集分析し、ひとつの結論を得る。それを論文としてまとめる作業である。論文として完成するまでの期間は1年～2年間である。

本誌143号で、「アウトプットのすすめ」を書いた。その中で2025年1月から論文執筆に取り掛かったことを述べた。その論文作成も昨年11月に終わったが、分量が多く森林部門機関紙フォレストコンサルの紙幅の関係で、2回に分けて掲載された。第1報は昨年12月号に掲載された。第2報は本年3月号に掲載される。2016年森林利用学会誌に論文が

掲載されて以来、今回で6本の論文を執筆したことになる。私は研究者でないので、執筆作業は帰宅後もしくは土日の休日を当てている。しかし、家事手伝いや孫たちと過ごす時間を優先しているため、なかなか思うように時間が確保できないこともある。

本年1月から、「林道災害の実態分析」をテーマに新たな論文を書く準備をおこなっている。現在、データ収集中である。

私の論文作成用のデータは公表された資料を用いる。鹿児島県庁にある県政情報センターには、よく足を運ぶ。センターは情報の宝庫だと考えている。九州各県庁にも、このような施設はあると思う。ここに存在しない情報は、公文書開示請求により取得するようにしている。現在、内地に1,000路線程度存在するが、林道は管理主体が市町村であるため情報を入手するため、22市町に公文書開示請求中である。少しずつ情報が集まってきている。印刷物はA4で1枚10円である。今回は情報収集だけで、数万円の費用を要す。

集まったデータを整理分析し、論文として仕上げ、今年中に学会に投稿できればと考えている。

所属：中央テクノ株式会社

(E-mail : iuchi@chuuou.jp)

## 九州本部 所属一覧 (各県別内訳)

正会員 2026年2月28日現在

部門	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計
機械	47	2	27	3	4	3	6	1	93
船舶・海洋	0	0	1	0	0	1	0	0	2
電気電子	53	1	9	6	5	1	1	3	79
化学	10	2	1	2	2	1	2	1	21
繊維	1	0	0	0	0	0	0	0	1
金属	17	3	2	0	2	0	1	0	25
資源工学	2	0	0	1	0	0	0	1	4
建設	374	37	56	59	84	39	58	70	777
上下水道	79	2	3	8	6	14	7	7	126
衛生工学	38	2	1	2	1	2	3	2	51
農業	33	11	10	22	6	10	16	11	119
森林	10	3	4	8	11	3	5	1	45
水産	10	0	2	2	4	0	2	4	24
経営工学	3	1	1	2	1	1	1	2	12
情報工学	16	1	1	1	3	1	2	1	26
応用理学	42	4	2	12	5	1	10	3	79
生物工学	3	1	0	0	9	1	0	1	15
環境	18	1	7	4	4	4	2	10	50
原子力・放射線	3	2	0	0	1	0	0	0	6
総合技術監理	214	16	22	33	35	17	36	36	409
合計	973	89	149	165	183	99	152	154	1,964
実人数	695	69	116	113	141	77	114	100	1,425

注：準会員数は、準会員および正会員のうち技術士登録していない部門に所属している人の合計

準会員 2026年2月28日現在

部門	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計
機械	4	2	2	0	1	1	1	1	12
船舶・海洋	0	0	0	0	0	0	1	0	1
航空・宇宙	1	0	0	0	1	0	0	0	2
電気電子	13	0	1	0	2	2	5	0	23
化学	3	0	0	2	0	2	1	0	8
金属	3	0	0	1	0	0	0	0	4
資源工学	2	0	0	0	0	0	0	0	2
建設	50	7	12	10	12	10	20	18	139
上下水道	4	0	0	1	0	4	4	0	13
衛生工学	7	0	0	1	1	0	0	0	9
農業	5	0	2	3	0	1	1	2	14
森林	1	1	0	2	1	0	0	0	5
水産	3	0	0	0	0	0	0	0	3
経営工学	0	0	2	0	2	3	0	0	7
情報工学	10	0	2	4	1	0	0	1	18
応用理学	6	0	1	0	1	0	0	2	10
生物工学	5	0	0	0	2	0	2	0	9
環境	13	1	2	3	4	1	4	13	41
原子力・放射線	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	131	11	24	27	28	24	39	37	321
実人数	85	9	18	23	17	17	25	22	216

注：準会員数は、準会員および正会員のうち技術士登録していない部門に所属している人の合計

## 中央・統括本部情勢

### 理事会

## 理事会報告

理事 にしい やすひろ  
**西井 康浩**

(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2025-27期の第5回理事会が、2026年1月28日に統括本部会議室において開催されました。

今回は、急遽私事の都合により欠席しましたので、参加報告ではなく、事前配布資料の中から主な審議事項3つと報告事項1つをご紹介します。

### 1-1. 修習技術者IPDガイドラインについて【審議】

修習技術者のIPD活動に対する多様な研修の支援として、日本技術士会はPeラーニングのプログラムをIPD活動の用に供して、全ての修習技術者が容易にIPD活動に取り組めるよう支援します。

### 1-2. 第53回全国大会運営委員会委員の委嘱について【審議】

第53回全国大会は東京での開催となり、統括本部が所轄します。当面は副会長、常設委員会委員長及び研修委員会・幹事会メンバー（基本検討小委員会）で構成され、今後は主要業務に沿って組織が形成さ

れ、進捗に応じ必要な委員が随時追加委嘱されます。

### 1-3. 会員の入会等について【審議】

会員数はここ数年横ばい状態であり、2025年11月末時点で、正会員16,691名、準会員3,025名、賛助会員154名です。2025年度正会員加入者624名の内、男性が582名、女性が42名となっています。

### 2-1. 2026年度事業計画案について【報告】

文部科学省科学技術・学術審議会技術士分科会が検討を進めている「今後の科学技術人材政策の方向性（中間まとめ）」において、①科学技術人材に対する投資の抜本的拡充、②科学技術人材の多様な場・機会での活躍拡大、③科学技術人材を支える組織・機関の役割の重視、この3つの提言がなされました。

日本技術士会ではこの3提言に則り、一般事業において次の4つの事業計画が示されました。①技術士全体の継続研鑽（CPD）推進のための実施強化につながる支援継続の実施、②多様性・公平性・包摂性を推進するDEI推進宣言と推進のためのアクションプランの検討、③技術士資格の認知度の向上及び活用促進を図るため、多様な技術分野及び地域の結集に向けてのステークホルダーとの連携・協力、及び日本技術士会内の組織間連携の強化、④会員数増加及び退会抑制に資する会員サービスの充実等の諸施策への継続対応、以上となっています。

所属：西井技術士事務所  
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

### 地域本部長会議

## 2025年度第3回 地域本部長会議報告

九州本部長 さたけ よしろう  
**佐竹 芳郎**

(建設、総合技術監理・福岡)



2025年12月9（火）機械振興会館（東京）で開催した2025年度第3回地域本部長会議の概要を報告する。

### [統括本部より説明]

1. DEI推進宣言の実践について 飯島委員長より説明あり。組織を対象にしたDEIディスカッションを開催する予定である。各組織にDEI活動の組織調査をする予定である。アクションプランを策定するが、スケジュールを検討する。

2. WEB名簿の個人情報の取り扱いについて 現状は初期登録時にすべて開示される設定となっているが、個人情報保護に関する観点から、初期登録時に、各自の意思で開示、非開示を選択できるようにする。但し、着手は26/4以降のスタートとなる見込みである。

3. 技術士パーソナルDB（高専支援）について 国

立高専機構との連携を視野に、各高専の依頼に応じて講師等を推薦する仕組みとして、技術士パーソナルDBに「高専」タブを設定した。会員各位に専門分野、可能な講座等を入力し、登録をお願いする。

### [地域本部よりの意見要望等]

1. 技術士試験の改訂予定はあるのか【東北本部】  
→令和8年度試験から改訂版コンピテンシー（令和5年1月）を基にした試験内容に変わるが、今回の改訂はその反映のみで制度自体の変更はない。今後さらに継続して検討する。

2. 技術士CPD実績記載申請者数、技術士CPD認定者数について 実績向上のために、地域本部毎かつ部門ごとの内訳を公開できないか【近畿本部】  
→事務局で確認し後日連絡する。

### [報告事項]

1. 北海道本部・近畿本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2026年2月に開催予定。  
2. 北陸本部は、北東3地域本部技術士交流研修会を2025年11月7日新潟市で開催した結果報告。  
3. 中国本部は、西日本技術士研究・業績発表年次大会を2025年11月14～15日広島市で開催した結果報告。

4. 九州本部は、第51回全国大会を2025年10月熊本市で開催した結果報告（参加人数、予算決算等）  
所属：株式会社新世コンソーシアム  
(E-mail: satake-yoshirou@ina.bbiq.jp)

## 統括本部総務委員会

### 総務委員会報告

委員 もちだ **持田** たくし **拓児**  
(建設・福岡)



2025-27期の第3回総務委員会と同地域小委員会が2025年12月17日に開催されました。今回は持田が機械振興会館、西井理事がWEB形式で参加しました。地域小委員会は、4地域から報告事項があり、審議事項はありませんでした。

また、「実行委員会のあり方についての検討」を議論しました。決定事項を下記に紹介します。

- 1-1. 地域本部から実行委員会委員を推薦できる制度へ見直す。
- 1-2. 実行委員会へ参画する交通費は、各委員会が必要性を踏まえて、予算化（当初予算、期中予算）し、支給するものとする。
- 1-3. 以上を踏まえて、「委員会運営に関する規則」(P.96～102)、「役員等国内旅費交通費支給規則」(P.93～95)を見直す。

続いて、総務委員会は、4項目の審議事項、12項目の報告がありました。主なものを紹介します。

#### 2-1. 「総務委員会の議事録作成に関する手引き」に関する審議事項

手引きの改定内容、議事録の位置づけ、記載例が示され承認されました。また、総務委員会内での議事録の確認・共有は、新たにメーリングリストを作成し行うことになりました。

#### 2-2. 「会員による活動グループ登録申請」に関する審議事項

技術士協同組合の下でグループ活動を行う研究会であることから、関係性を再度確認することとし、登録申請書は、保留となりました。

#### 2-3. 「緩やかな連携」に関する審議事項

「JICA技術士会」は、35人中8人と当会員が少ないが承認されました。

「東レ技術士会」は、会則を確認した後に再度審査を行うことになりました。

#### 2-4. その他

総務委員会の予算及び委員会の代理出席に関する説明が行われました。

所属：株式会社和晃地質コンサルタント  
(E-mail: t-motida@wakou-tisitu.co.jp)

## 総務・企画委員会

### 2025年度活動報告

委員長 すえまつ **末松** まさのり **正典**  
(機械、総合技術監理・北九州)



総務・企画委員会が所管する業務は下記に示す10項目である。

- (1) 本部の組織・運営管理に関する事項
- (2) 本部主催行事の企画・実施に関する事項
- (3) 事業計画・報告案作成に関する事項
- (4) 財務の管理に関する事項
- (5) 統括本部・他地域本部・県支部及び他団体との連携に関する事項
- (6) 役員会運営及び実施に関する事項
- (7) 会員の顕彰に関する事項
- (8) 会員拡大に関する事項
- (9) 国際的活動に関する事項
- (10) その他、他の委員会の所掌にない事項

所管項目が多いため、委員12名を3グループに分けて対応している。2025年度は前年同様に引続

き活動を行ってきた。

#### 1. 第1グループ；(4)(5)(6)(7)を所管。

- ・ 項目(4)：九州本部の予算と実行状況を把握し、問題ないことを確認した。
- ・ 項目(6)：県支部長会議や合同役員会に出席し、情報収集と共有化を図った。

#### 2. 第2グループの活動；(2)(3)(5)を所管。

- ・ 項目(5)：九州本部と各県支部（宮崎、熊本、長崎、大分、鹿児島、佐賀）との意思疎通にあたり、隣県同士の連絡会議の場を設定した。長崎と熊本間では長崎県支部でのCPDを熊本県支部へオンライン配信を検討すること、大分と佐賀間では大分県支部で実施するCPDを佐賀県支部にオンライン配信することとし、8月30日に連絡会議を行い、11月15日に実施された。

#### 3. 第3グループの活動；(1)(8)(9)を所管。

- ・ 項目(1)：統括本部の役員会や委員会へ出席し、参加して得た情報を基に対応を検討した。
- ・ 項目(9)：国際的活動に関する事項については、日韓技術士国際会議等があり、統括本部からの情報により対応予定である。

所属：末松技術士事務所  
(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

## 委員会・部会報告

### 地域産業支援委員会

#### 活動報告

副委員長 **福田 達彦**  
(電気電子・大分)



地域産業支援委員会では、九州経済産業局や各県の行政機関と連携し、地域企業の振興および技術支援の推進に取り組んでいる。以下に、最近の主な活動状況を報告する。

#### 1. 九州本部・技術相談運用の活性化 ・技術相談件数増加に向けた取組

技術相談の増加は、技術士の認知度向上、活動領域の拡大、さらには地域社会への貢献強化につながる重要な要素である。現在、年間数件にとどまっている相談件数の増加を目指し、情報発信の強化に取り組んでいる。

2024年8月には、一般技術者向けに委員の専門分野に関する技術記事を紹介する「技術士の窓」を九州本部ホームページ内に開設した。概ね月1件のペースで新規記事を掲載し、1月末時点で17件の記事を公開している。記事へのアクセスは月数百件に達し、12月には九州本部ホームページ全体の約4分

の1を占めるまでに増加した。

また、地域産業支援委員以外の会員からの投稿も順調に増えている。引き続き、多くの会員の皆様に投稿へのご協力をお願いしたい。

アクセス件数の増加は検索結果での表示向上にも寄与するため、技術相談件数の増加にもつながると期待される。

ぜひ右上QRコードから「技術士の窓」にアクセスいただき、記事をご覧いただきたい。

今後も「投稿増加 ⇒ アクセス増加 ⇒ 検索ヒット率向上 ⇒ 技術相談増加」という好循環の確立を目指すとともに、さらなる施策についても検討を進めている。

#### ・技術相談対応状況

「技術士の窓」閲覧を契機とした相談も寄せられているものの、全体としては依然として相談件数は低水準にある。引き続き、相談窓口の周知と利用促進に努めていく。

#### 2. 外部機関との連携強化

地域企業支援の幅を広げるため、外部機関との連携にも取り組んでいる。産学官交流研究会である「一金会」や、ニュービジネス協議会である「二月会」へ参加し、情報交換やネットワーク構築を進めている。

所属：福田国際電気技術士事務所  
(E-mail: fipeo@japan.nifty.jp)



### 研修委員会

#### 2025年12月度CPD&ものづくり部会CPD共同開催報

委員 **西井 康浩**  
(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2025年12月6日(土)、福岡商工会議所ビル406-407号会議室において、12月度CPDが開催されました。今回は初めての試みとして、ものづくり部会との共同で開催されました。参加者は91名(会場43名、Web48名)でした。

以下、講師4名の講演概要を紹介します。

#### 1. 「科学的に日本刀を見る～そのメカニズムの凄さと美しさ～」

瀬々昌文氏(技術士(金属)、ZEZE技術士事務所)

本講演では、金属工学的および芸術性の視点から、日本刀の素晴らしさが紹介されました。特にたたら場における製鉄の『暗黙知』を、現代科学の『形式知』でとらえる評価が、新たな発見でした。

#### 2. 「天敵利用で農薬半減、農薬を撒かず防ぐ害虫管理」

村田浩平氏(東海大学農学部教授、博士(農学))

農作物の害虫は多種多様であり、この害虫を管理するため、多くの農薬が使用されています。この改善策として、対象害虫の天敵を上手に利用し、使用農薬を減量させる研究成果等が紹介されました。

#### 3. 「月探査の現状～New Spaceによる月面プロジェクト～」

増井博一氏(九州工業大学大学院工学研究院宇宙システム工学研究系助教、博士(工学))

本発表では、月探査計画における直近の事情等が紹介され、特にNew Spaceと呼ばれるベンチャー企業による最新のトピックスとその取り組みについて、興味深い話題が提供されました。

#### 4. 「糖尿病とインフォマティクス～工学が拓く医療の未来と災害対応～」

安西慶三氏(医療法人社団高邦会高木病院副院長、佐賀大学名誉教授、博士(医学))

本講演は、糖尿病を工学・情報科学を含めた社会全体の課題として捉え、医工学連携の視点から、最新の医療と情報工学を融合させた「糖尿病インフォマティクス」を分かり易く解説されました。

以上のように12月度CPDは、恒例の健康をテーマとするものから、地上の害虫問題、宇宙の月面基地に再度人類を送り込む技術、さらには日本刀の美について幅広く学べるイベントとなりました。

所属：西井技術士事務所  
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

## 倫理委員会

### 活動報告

委員長 さとつ 佐藤 みつお 光雄  
(建設、総合技術監理・大分)



倫理委員会の昨年7月から本年1月までの活動についてご報告申し上げます。

#### 1. 研鑽活動(委員による意見発表と意見交換)

城戸委員により新倫理綱領「9. 相互の尊重」について意見発表が行われました。技術士として、多角的・国際的な視点を忘れず、自律的に行動する。自律的に行動するためには、①「尊重」「人権」「多様性」とは何かを問い続ける、②ハラスメントや差別につながる言動をしていないかを客観的に問い質す、③関係者の業務上の権利を侵害、妨害していないかを自らに問い質す姿勢が重要という提言がなされました。その後、各委員による意見交換が行われました。

#### 2. 4つのチームによる分科会活動

活動管理チームは、どのような役割で活動するのかについて、チーム内で継続協議を行っています。

企画配信チームは、「法と倫理」という新しい研鑽企画について、委員各位に向けてアンケート調査を行い、発表者についての提案調整を行っています。

教育啓発タスクチームは、協賛企業から回答いただいたアンケート結果についてのお礼ハガキの文面案の作成を終え、近日中に送付する予定です。今後は、興味あるテーマやAIとの付き合い方、SNS情報、既存メディアの情報の見抜き方などについて発表・意見交換する予定です。

連携・交流タスクチームは、九州内各県支部間の連携とともに中国本部との連携を継続し、四国、近畿、中部本部への連携・交流活動を目指しています。

#### 3. 統括本部倫理委員会への参加

佐藤が倫理委員会全体会議(WEB併用)及び月1回WEBで行われる情報小委員会に参加しています。

#### 4. 第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)の技術者倫理情報交換会のホストとしての役割

九州本部及び各県支部の皆様方のご協力により、大きなトラブルもなく開催できましたことを、本紙面をお借りしてお礼申し上げます。情報交換会の報告は、月刊技術士PEの委員会からの報告に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

所属：エヌティエス技研株式会社  
(E-mail: m-sato@nts-giken.co.jp)

## 防災委員会

### 防災委員会活動

委員長 いしもと 石本 としあき 俊亮  
(建設、総合技術監理・福岡)



#### 1. 下半期活動報告

##### ① 弁護士会防災担当者との意見交換(2026.1.26)

防災委員会では、土業連携の試みとして2017年より、福岡県専門職団体連絡協議会の被災者支援制度研究会に参加し、自然災害の被災者支援に関する取組を進めてきました。被災現場での活動は、2022年、2023年の豪雨災害で被災した久留米市の被災者相談会に参加しました。全国的には、統括本部、近畿本部、中国本部等地域本部に加え、静岡県、愛知県等で土業連携の枠組みの中で活動が行われています。今回、福岡県以外での連携の可能性を確認するため、被災者支援制度研究会の吉野弁護士を通じ、他県の弁護士会にご紹介いただき、熊本、宮崎、沖縄県の弁護士会担当者と、各土業団体の防災活動の状況を確認しました。

福岡と同様の活動は、行われていませんでしたが、

土業連携における技術士会の役割を認知していただきました。

##### ② 西日本工業大学土木学科との意見交換(2026.2.3)

西日本工業大学で苅田町の小学校で防災授業を行った4年生と、授業内容や課題等について意見交換を行いました。

直方での授業を参考に、タイムラインの検討やハザードマップの学習を行われたそうです。

今後も防災授業を実施される予定との事で、防災委員会も協力し、知見を深めたいと考えています。

##### ③被災者支援研究会への参加

2月12日に、防災講話～自衛官だから伝えられる、大規模震災の現状について～と題して、自衛隊福岡地方協力本部福岡地区隊長の渡辺氏の発表を聴講しました。防災に関する情報が多く、参考になりました。

#### 2. 下半期活動予定

##### ①2026年3月14日第4回防災委員会

2025年度最後の防災委員会を石川ビル6Fの会議室で行います。恒例の研修については、応用理学の高嶋委員より講演をいただく予定です。

##### ②防災CPD企画～気候変化を気象予報士に聞く(仮)

防災委員会でも気象予報士資格をお持ちの古賀委員によるCPD講演を3月末に試行する予定です。

所属：アジア共同設計コンサルタント  
(E-mail: toshiaki\_ishimoto@yahoo.co.jp)

## 委員会・部会報告

### 青年技術士交流委員会

#### 技術士普及活動 高校初開催！！

委員 おおかわ **大川** いたる **至**  
(建設・佐賀)



#### 1. はじめに

2025年9月25日(木)に佐賀県立致遠館高等学校にて実施した普及活動について報告します。

#### 2. 普及活動について

九州本部青年技術士交流委員会では毎年、九州各地の大学や高等専門学校を対象に、技術士制度やJABEE制度の説明、ならびに各部門の技術士による講演を通じた普及活動を行っています。そのような中、致遠館高等学校の宮副先生より九州本部にお問い合わせをいただき、今回の技術士普及活動を実施する運びとなりました。高校での開催は初の試みであり、加えて同校は文部科学省より指定された「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」として、先進的な理数系教育・探究活動を行う高校でもあることから、生徒の将来の進路における選択肢を広げる機会として本普及活動を実施しました。

#### 3. 講演内容について

講演に先立ち、佐賀支部の福岡支部長にご協力をいただき、約120名の生徒を前に、スタッフの山田委員長と共に、下記の内容で講演を実施しました。  
講演1:「理系の君」なら絶対知っておくべき「技術士」って何?(大川)

講演2:技術士の仕事(福岡支部長)

講演1では、技術士資格の受験資格や求められる資質、取得した場合のメリットや待遇について説明し、講演2では、科学技術とは何か、技術者倫理、課題解決能力および主体性の重要性について、わかりやすく説明しました。生徒たちは熱心にメモを取りながら聞いてくれました。

#### 4. アンケート回答内容について

技術士への理解と関心が高まった、将来の進路の選択肢が広がった、などの声が多く見られ、生徒たちの将来の選択肢を広げることができたと実感しました。

#### 5. おわりに

今回の機会をご提供いただいた関係各所に感謝申し上げます。6月に2回目の講演実施も決定しており、今後も技術士制度の普及に努めてまいります。

所属:松尾建設株式会社

(E-mail: okawa-itaru@matsuo.gr.jp)

### 北九州地区支部支援委員会

#### 北九州地区支部 への期待とは?

委員長 むた **牟田** ひであき **英昭**  
(建設、総合技術監理・北九州)



▼地域の歴史的な特質として、ものづくりとしての職人としての気質を技術士が有している。企業の若手の指導や中堅技術者のリスクリングとしての役割も考えられる。化学・総監 ▼若手技術士の多くの参加を期待する。電気電子 ▼日本の産業構造の変化に応じて、技術部門の見直しが必要ではないかと考えている。多くの技術部門の技術士が参画されている北九州地区支部において、意見交換の場があれば良いと考える。金属・総監 ▼地域の方々との交流の場とかもできたら望ましいと思う。経営工学

▼北九支部と九州本部、及び統括本部とで期待することが異なると思う。北九支部なら期待するより

「自ら提案」が重要ではないか。機械・金属 ▼期待は特になし。以前の方がフレンドリーだった。現在は上下関係があり面白くない。以前の会員さんは今いづこ。 ▼コロナ禍後、久しぶりに参加した。北九州は私の地元(長崎)よりも自分の専門に近い話を聞くことができるので、今後も参加させてほしい。機械 ▼徐々に異分野の話を聞くことができ楽しい時間を過ごすことができた。今後は、公開シンポジウムではなく月例研修会での講演に力を入れてもらいたい。上下水道 ▼様々な部門の先生に発表して欲しい。個人的には水産部門に興味がある。総監・衛生・建設 ▼これからも興味深いテーマの話が聞けることを期待する。機械 ▼今回初めて技術士の活動に参加させて頂いた。他分野・他企業のお話も非常に興味深く、自分の会社や仕事にも活かせるポイントが多々あった。生物工学

「2026.12.13 第16回公開シンポジウム意見報告」

所属:牟田技術士事務所、西日本工業大学非常勤講師

(E-mail: muta.san06@gmail.com)

## 建設部会

### 現地見学会報告

委員 ふじしま 藤島 よしひさ 義久  
(建設、総合技術監理・福岡)



建設部会では令和7年11月11日に現地見学会を開催しました。以下にその概要を報告いたします。

今回は北九州・京築地区にあって、重要な交通基盤を担う北九州空港と苅田港を対象としました。

青空が広がる絶好の見学日和の中、31名のご参加を得て博多駅筑紫口を出発しました。

#### (1) 北九州空港滑走路延長事業

最初に、令和9年夏に供用開始予定の滑走路延長事業を国土交通省九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所の栗林副所長からご説明いただきました。本事業は大型貨物機の長距離運航を目指すもので、視察場所が滑走路工事や大型護岸ブロック製作など、事業概要を一望できる海上保安学校の屋上ということもあり、多くの参加者から多岐にわたる具体的な質問が出て、あっという間の50分でした。

#### (2) 同空港ターミナル施設整備事業

引き続き、ターミナル施設の管理運営を担う北九州エアターミナル株式会社総務部管理課の樋本係長のご案内で、展望デッキに移動し、ターミナル施設の概要とともに建築物としての特徴などをご説明いただきました。その後、同社の代表取締役専務の小島氏にも同行いただいて制限区域内に進み、周辺に航空貨物機の運航や滑走路延長を睨んで拡張中の貨物地区を順次視察しました。

#### (3) 苅田港新松山地区造成事業

空港島を後に、美しい景観を誇る新北九州空港連絡橋を渡り、隣接する重要港湾の苅田港において、自動車産業等進出の受け皿として整備が進む新松山地区造成事業の現場に向かいました。福岡県苅田港務所川崎所長からのご挨拶の後、同所倉本工務課長から本事業の目的や現工事の進捗状況を伺いました。同事業の特徴は超軟弱地盤での地盤改良であり、大規模かつ高度な技術を駆使しての工事に関心が集まりました。

天候にも恵まれ、無事に終了しました。関係者の皆様に改めまして感謝申し上げます。

所属：株式会社日建技術コンサルタント九州支社  
(E-mail: pfujhima0720@yahoo.co.jp)

## みどり部会

### 活動報告

部会長 やまべ 山部 てつろう 鉄朗  
(森林・福岡)



#### 1. はじめに

令和7年12月17日に九州本部みどり部会現地見学会を実施したので報告します。当日の参加者は会員10名と今回は技術士に関心がある九大農学部森林政策学の学生3名と森林保全学研究室の水野秀明准教授の計4名を加えた14名。

#### 2. 現地見学会

今回水資源機構筑後川上流総合管理所を見学し、その概要と平成29年7月に大きな被害を起こした九州北部豪雨の際の働きについて管理課長 村田裕氏(技術士:建設部門)を講師として研修を行った。

##### 1) 概要

筑後川上流総合管理所は筑後川水系の江川ダム、

寺内ダム、小石原川ダム、大山ダムの4ダムを管理している。特に位置が近接している寺内、江川、小石原川ダムの3ダムでは都市用水や農業用水の安定供給を、福岡都市圏や流域の重要な水源として効率的・効果的な運用を行っている。

#### 2) 平成29年7月九州北部豪雨における寺内ダム防災操作について

平成29年7月九州北部豪雨は、朝倉市・東峰村周辺に甚大な被害をもたらしたが、寺内ダムが防災操作を実施し、下流への放流量を大幅にカットすることで被害の軽減に大きく寄与した。さらに、上流域で同時多発的に発生した山腹崩壊からの大量の土砂や流木をダムで補足することで、下流への被害拡大を防止したことに関して、寺内ダムの流木補足効果についての重要性が図表や写真を使って説明された。講演後の現地視察では寺内ダム上流の腹崩壊箇所を視察し、当時の災害発生状況と森林造成と治水対策の重要性についての説明を受けた。

今回初めて技術士を目指す学生も対象としたが、今後もこの取り組みは続けていきたい。

所属：株式会社コンサルハマダ福岡支店  
(E-mail: angle26of26repose626@gmail.com)

## 委員会・部会報告

### 環境部会

#### 環境部会主催の 見学会開催の報告

副部長 くどう しゅういち  
**工藤 修一**

(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



#### 1. はじめに

環境部会は、九州地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の3部門からなる部会です。2025年12月4日に実施した環境部会主催の見学会について報告いたします。

#### 2. 見学会の実施内容

見学会は、①西部ガスひびきLNG基地の、「ひびきLNG基地と地域の原料を活用したメタネーション実証事業の説明と施設見学」、②福岡地区水道企業団海水淡水化センターの、「海水淡水化センターと未利用資源で浸透圧発電実証施設」を訪れました。

#### 3. 見学会の結果

参加者は21名でした。ひびきLNG基地では、まず、基地の役割や業務内容、LNGの供給方法、メ

タネーションの仕組みについて説明を受けました。その上で、LNG基地の各施設や実証事業の施設を見学しました。

参加者からは、実証事業の結果やCO<sub>2</sub>や水素の調達方法等について、多数の意見や質問がありました。

海水淡水化センターでは、海水淡水化の説明を受けた上で施設を見学しました。また、浸透圧発電の実証施設の前で見学ならびに説明を受けました。

参加者からは、浸透圧発電の運転開始後の発電量の結果や実装化の見通し、海水淡水化の膜処理のコスト削減の取組み等について、多数の意見や質問がありました。



#### 4. 令和8年度の活動について

環境部会では、令和8年度も講演会と見学会を開催します。テーマや見学先は決まり次第ご案内します。多数のご参加をお願いいたします。

所属：メック株式会社

(E-mail: s.kudou@mec-corp.co.jp)

### ものづくり部会

#### 活動報告

幹事 かみむら まさき  
**上村 昌己**  
(機械・大分)



ものづくり部会では、2025年12月6日(土)に九州本部研修委員会との共同開催で2025年12月度CPDを福岡商工会議所およびWeb配信で開催しました。本CPDは多様な技術分野が連携し学びの場をつくるという部会の取組を象徴する企画のため、内容を紹介します。今回は以下の4講演を行いました。

■講演1「科学的に日本刀を見る～そのメカニズムの凄さと美しさ」瀬方昌文氏

■講演2「天敵利用で農薬半減。農薬を撒かずに防ぐ害虫管理」村田浩平氏

■講演3「月探査の現状～NewSpaceによる月面プロジェクト～」増井博一氏

■講演4「糖尿病とインフォマティクス～工学が拓く医療の未来と災害対応～」安西慶三氏

各講演のテーマは、金属工学、農学、宇宙工学、医学と一見異なる専門分野の講演が並んでいますが、

それぞれの講演が技術継承、持続可能社会の実現、産学連携、医療と情報の融合といった「工学・技術が社会課題の解決にどのように貢献しているか」という共通テーマのもとに講演されています。こうした幅広いテーマにわたるCPDを行うことができるのも、機械・電気電子・情報・航空宇宙など多くの技術分野が協力して運営を行っているものづくり部会と、過去に多くのCPDを実現してきた九州本部研修委員会が協力し、そのシナジー効果が顕著に発揮されたためです。

また当部会では、Web配信を利用したCPDを行うことで、九州に限らず、日本全国の技術士が「どこでも」参加できる環境と、各講演講師の先生方のご協力をいただき、講演の録画をCPDに出席できなかった方のために後日視聴できる環境を整えています。ワークライフバランスの観点で制約の多い現代の技術士が時間と空間の制約を超え、参加しやすい時間・場所においてCPDに参加できる環境を準備することは部会の使命であり、今後も改善を重ねていきます。

ものづくり部会は、技術士同士の交流と研鑽の場を広げていきます。部会参加をご検討いただける方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

所属：ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社

(E-mail: Masaki.Kamimura@sony.com)

## 支部だより

佐 賀

### 秋の技術懇話会

～環境の保全による  
低炭素社会の実現～

副支部長 こが ひろふみ  
**古賀 浩史**  
(建設・佐賀)



令和7年11月20日(木)に「令和7年度第2回技術懇話会」をメートプラザ佐賀で開催しました。佐賀県支部では、会員および県内外の技術者のスキルアップと親交を深める目的で、春と秋に技術懇話会(CPD)を開催しています。令和5年度より「環境の保全による低炭素社会の実現」を大テーマとして懇話会を開催しており、今回はこのテーマによる3年目のCPD年度となっています。

**テーマ1：九州地方整備局における働き方改革への取り組みについて紹介**

**講師：国土交通省佐賀国道事務所 上馬庭 健**

公共工事の現状と国土交通省における働き方改革への取り組み状況が紹介されました。自然災害がもはや「日常」となっており、社会資本の老朽化や担い手の不足等、建設業は多くの課題を抱えています。

働き方改革取り組みとして、書類作成業務の負担軽減、時間外労働の見直し、工事現場の完全週休二日等に加えて、新・担い手3法による建設業の担い手確保を行っています。また、脱炭素アクションプランを策定し建設機械やコンクリートを主対象とした建設現場のカーボンニュートラルも進めています。  
**テーマ2：ペーパースラッジ(PS)灰を基材とした環境配慮型「無機吸水系土質改良材」の適用性について**

**講師：株式会社フジタ 土木本部 相良 昌男**

産業廃棄物であるPS灰を原料とした土質改良材の、特徴と有効性が紹介されました。FTマッドキラーは再生紙の製造段階で副生するPS灰を基材とした無機多孔質で、吸水効果を主体とする土質改良材です。養生期間必要とせず、すべての土質に対応可能です。また、製造時のCO<sub>2</sub>排出量が少なく、材料のpHも低いことから周辺環境への影響が少ないのも特徴です。改良材の特徴の紹介や現地での施工事例に加え、製品現物を用いた講習会場での混合・攪拌・改良実験も実施されました。

今後も継続的に技術懇話会(CPD)を開催し、技術力向上と異業種交流に貢献したいと考えています。

所属：株式会社親和テクノ  
(E-mail: koga@shinwa-techno.co.jp)

長 崎

### 長崎県技術士会 創立50周年記念誌

支部参与 かわむら あきのぶ  
**川村 昭宣**  
(建設・長崎)



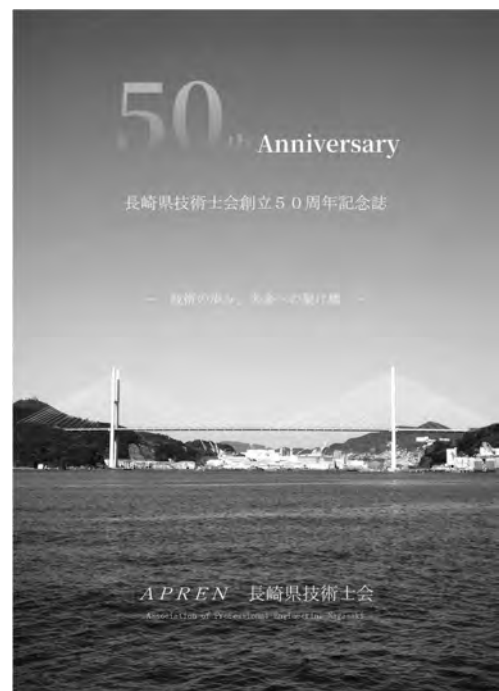
日本技術士会長崎県支部は2014年6月に創立されましたが、それ以前は長崎県技術士会が九州支部長崎地区として活動しておりました。

長崎県在住で東京本部の副会長や九州支部長を歴任された故黒瀬正行氏や、九州支部長をされた故野々下金氏、コンサルタント会社元社長の故藤永勝之氏を中心にして、長崎県技術士会は昭和50年(1975年)に創立されました。

昨年(2025年)創立50周年となったので、これを記念して創立50周年記念誌作成を計画しました。昨年4月より、今年の1月まで8回の編集委員会で、毎回3時間以上熱心に内容討議してきましたが、今年3月には印刷完了の予定です。

多くの方からのご祝辞や、長崎県技術士会創立の経緯、九州支部(現九州本部)との関係、50年間の活動状況、新旧役員や会員からの投稿、将来像や今後への期待などを掲載しております。

下記に表紙を示しますが、4月には九州本部や各県支部にも配布予定なので、ご一読下されれば幸いです。



所属：有限会社吉川土木コンサルタント  
(E-mail: ak-kwmr@mx.cncm.ne.jp)

## 支部だより

### 大分

#### 大分県支部 新年互礼会 兼中間報告会開催の報告

支部幹事 あべ つとむ  
**安部 勉**

(建設、総合技術監理・大分)



大分県支部と大分県技術士協議会では毎年恒例となっている「新年互礼会兼中間報告会」を1月24日にトキハ会館において31名の支部及び協議会会員参加のもと開催しました。

中間報告会に先立ち、CPD研修会として、九州建設コンサルタントの衛藤講師より、「近代上下水道とこれからの課題」の演題で講演をいただきました。現代の上下水道の仕組みや現状の紹介、近年激甚化する自然災害時の状況、老朽化が進行する施設の現状やそれらに起因する事故の発生、社会情勢の変化等の各種課題を踏まえ、技術者として取り組むべき方向性について整理することができました。

中間報告会は、湯地支部長による開会挨拶で始まり、昨年10月に熊本県で開催された第51回技術士全国大会が成功裏に終わり、九州本部の団結

力を示すことができたのではないかとこの事でした。また、九州本部として、修習技術者を対象としたIPD事業のスマールスタートについて、統括本部の技術士CPDセンター等に連携・協力する事や本年秋開催予定の第46回産学官と技術士の合同セミナーの成功を目指して取り組むとの事でした。その後、九州本部各委員会の活動報告が行われ、みどり部会が11月に大分県で林業技術者の講習会を開催する予定である等の報告がありました。

報告会後の互礼会は竹内協議会会長の乾杯の発声で始まり、各テーブルで活発な情報交換が行われました。最後に、最高齢の安藤様による一本締めで会を締め、散会となりました。



所属：株式会社安部組  
(E-mail: abe-t.abe@shirt.ocn.ne.jp)

## CPD報告

### 長崎

#### 長崎県支部 第4回CPD研修会報告

支部幹事 そのだ なおし  
**園田 直志**

(建設、CPD認定・長崎)



令和8年1月28日、諫早市商工会館で2025年度第4回CPD研修会が開催されたので概略報告します(参加者数38名、内WEB参加10名)。当該支部のハイブリッド式開催方法も充実してきました。

**演題1：「技術者の生命倫理」岩見祐子氏(大分大学理工学部、九州本部倫理委員会)**

生命倫理とは、「医師の倫理」あるいは「医療の倫理」とよばれていた。医療の科学技術化の発展に伴い、人間の生命に関する干渉の是非を検討するバイオエシックスの重要性が増している。細胞・核・DNA・ミトコンドリア、ES細胞・IPS細胞の違いなど概略を学び、ゲノム編集技術再生医療技術、人材育成における事例研究を通した論点整理について学んだ。

**演題2：「ウルグアイにおける活動(獣医病理学指導を中心として)」山崎寛治氏(ウルグアイ共和国大学名誉教授)**

毒性学、毒性試験VS実験動物学の研究者を経て、2016年からJICAプログラム支援で赴任したウルグアイ共和国大学の病理学研究指導、獣医学研究や人材教育の指導を行ってきた経緯について講演された。南米大陸やウルグアイ共和国の歴史、文化、学生の意識の違いなどについて、多方面の幅広い科学技術、社会文化分野の人生観を交えた研修内容であった。

**演題3：「ヘルスケアモニタリングのための生体ガスセンサーの開発」上田太郎氏(長崎大学大学院総合生産科学研究科)**

呼吸や皮膚から放出される(生体ガス)に含まれる揮発性有機化合物(VOCs)は特定の疾患や健康状態によりガス濃度が変化する。生体ガス検知する高感度・選択的に検知可能なガスセンサ開発の先端研究分野の講演である。ガスセンサの種類は、半導体式・電気化学式・ダイオード式・吸着燃焼式などについて学び、このガスセンサは、継続的に健康状態を把握できる有力な手段であり、医療分野における応用が期待されている。

所属：N.ソノダ技術士事務所  
(E-mail: sonoda\_naoshi@icloud.com)

# CPD報告

## 鹿児島

### 第49回 CPD講演会報告

研修副委員長 つねよし あきひこ  
**恒吉 明彦**  
(農業・鹿児島)



#### 1. はじめに

2026年2月7日(土)、鹿児島市勤労者交流センターで第49回CPD講演会を開催した。県内外からオンライン受講者3名を含む39名(うち会員33名)の参加を得た。

#### 講演1.『未来につなぐ 日々の風景』尾野 薫氏 (宮崎大学地域資源創成学部 講師)

最初に、少なくとも私は初めて耳にした『地域資源創生学部』についての説明があった。これまでの大学では経済学、工学、農学、心理学等ある専門分野に特化して知見を深めるというスタイルが通常であるが、当学部では色々な専門分野の講師陣が在籍し、それぞれの知見を融合して視野の広い物の見方、或いは創造力を習得させるという狙いがあると私は理解した。

講演では、風景と景観の違いについて学生に質問すると、様々な情景が風景として捉えられていることがわかる。これは、各個人がそれまでに経験した

出来事により感じ方や捉え方が違ってくるためである。

私たちは物を見てるけど見えていないことが多々ある。街づくりや災害復興の際、安全性はもちろん大切であるが、地域で守りたい風景や暮らしを未来につないでいくという視点で進めていきたいと語られた。

”人が主役で街は舞台”

#### 講演2.『画像は見る時代から、読み解く時代へ:AIによる視覚データの進化』松田 翔太(第一工科大学工学部情報・AI・データサイエンス学科助教)

近年、AIを用いた画像解析技術は急速に進化している。画像から”意味”や”構造”を理解する力が実用段階に達しつつある。講師の研究室ではいくつかの事例研究をしているが、その中で全長47kmの吹上浜砂丘において離れた4か所で砂を採取し、画像をAIに学習させ、採取位置を特定(セグメンテーション)させるという研究事例の紹介があり、80%~90%の確度で判断できたとのことである。ただ、そのためには多くの画像をAIに学習させる必要があり、現段階では最後の判断は人の判断に頼らざるを得ないが、AIを人の判断を支える道具として扱えるよう更に研究を進めたいとのことであった。画像処理技術が社会に役立つ日も近いのかなと感じた。

所属：中央テクノ株式会社  
(E-mail: at3459@nils.ne.jp)

## 会員ニュース

### 公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

#### 〈令和7年10月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	上村 俊英	建設	株式会社建設技術研究所九州支社
福岡 正会員	竹原 哲郎	建設	日本工営株式会社福岡支店
鹿児島 正会員	福留 三郎	農業	株式会社久永コンサルタント
鹿児島 正会員	福留 三郎	上下水道	事業本部

#### 〈令和7年11月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	上杉 吉史	建設	ライト工業株式会社九州統括支店
福岡 正会員	加治木博明	建設	アクアインテック株式会社
福岡 正会員	片山 善郎	建設	八千代エンジニアリング株式会社九州支店業務企画部
沖縄 正会員	信定 稔久	建設	国際航業株式会社PFI戦略グループ
鹿児島 正会員	茂利 優一	建設	福地建設株式会社

#### 〈令和7年12月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
大分 正会員	亀井 敏和	建設	松本技術コンサルタント
大分 正会員	亀井 敏和	総合技術監理	株式会社

福岡 正会員	河元 隆利	建設	アジア開発銀行
福岡 正会員	河元 隆利	総合技術監理	
佐賀 正会員	助石 寛	建設	九州防衛局
長崎 正会員	馬場 一孝	建設	有限会社吉川土木コンサルタント
福岡 正会員	松平 有生	応用理学	エス・エー・アイ構造設計
福岡 正会員	松平 有生	建設	株式会社構造設計部

#### 〈令和8年1月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
長崎 正会員	阪森 由実	機械	三菱重工業航空機技術部
福岡 正会員	渡辺 剛	機械	日本タンガスステン株式会社
福岡 正会員	西川 修作	電気電子	西日本技術開発株式会社河川部
福岡 正会員	西川 修作	建設	
福岡 正会員	西川 修作	上下水道	
福岡 正会員	西川 修作	総合技術監理	
福岡 正会員	藤井 郁美	電気電子	株式会社関電工西日本営業本部エンジニアリング
大分 正会員	辻 省悟	建設	株式会社SANEI企画室
佐賀 正会員	平野 智志	建設	外務省在ミャンマー大使館
福岡 正会員	平野 智志	総合技術監理	
福岡 正会員	八木 孝志	上下水道	株式会社日水コンサルティング本部下水道事業部西
福岡 正会員	八木 孝志	上下水道	部施設部
大分 正会員	勢村 元章	建設	福岡県庁京築県土整備事務所

# ～合格、おめでとうございます！！～

2025年度 技術士第一次試験・第二次試験合格者合同祝賀会を開催いたします。

## 【福岡会場】技術士試験（第一次・第二次）合格祝賀 CPD（研鑽会）と合格祝賀会

### 〔CPD（研鑽会）〕

主催者：公益社団法人日本技術士会九州本部（青年技術士交流委員会司会進行）

開催日時：2026年5月9日（土）13：00～17：30

場所：福岡商工会議所（福岡市博多区博多駅前2-9-28）

参加費：新合格者：無料（非会員含む、JABEE認定見込み・既資格者の部門追加合格を含む）

上記以外は会員：1,000円、非会員：1,500円

内容：

1. 意見発表：「持続可能性に向けての取り組み」（仮題）

キュウセツAQUA株式会社 技術士(上下水道) 太田伸良 氏  
株式会社日建技術コンサルタント 技術士(上下水道/総監) 吉田憲治 氏  
株式会社エックス都市研究所 技術士(衛生工学) 八百屋さやか 氏

2. 合格祝賀ワークショップ：「部門連携による持続可能な社会の実現！」（仮題）

日本技術士会九州本部青年技術士交流委員会



### 〔合格者祝賀会〕

開催日時：2026年5月9日（土）18：00～20：00

場所：大博多センタービル「頤和園」（博多区博多駅前2-20-1）

参加費：新合格者：1000円（非会員含む、JABEE認定見込み・既資格者の部門追加合格を含む）

上記以外は会員：4,000円、非会員：5,000円

詳細・申込み案内は、九州本部ホームページに掲載：<http://www.pekyushu.com/>

### 【参考】2024年度 合格祝賀CPD・合格祝賀会（2025年5月10日）の様子



記念講演 泉 優佳理 氏  
(科学技術コミュニケーション研究所)



合格祝賀ワークショップ



新規合格者（参加者）と九州本部長



祝賀会の様子

公益社団法人 日本技術士会 九州本部は、  
技術士試験（一次および二次）に合格された貴殿の  
今後のご活躍につながる研鑽を積極的に支援させ  
て頂きます。是非、ご参加ください。

九州本部の管轄内では、以下の会場でも合格祝賀会を開催しております。  
お近くの会場にも是非、ご参加ください。  
技術士（一次および二次）に合格された貴殿のお越しをお待ちしております。

#### 長崎会場（九州本部長崎県支部 技術士第一次試験・第二次試験合格者合同祝賀会）

日時 2026年6月6日（土） 年次大会・研修会：14:50～16:50、合格者祝賀会：17:00～19:00  
会場 ホテルセンリュウ（長崎県諫早市永昌東町13-29, TEL: 0957-22-8888）  
会費 研修会： 新合格者：1,000円、会員：1,000円、非会員：2,000円  
合格者祝賀会： 新合格者：無料、既資格者：6,500円  
問合せ及び申込先 長崎県支部事務局 折田定良 TEL：095-824-3620,  
E-mail：s.orita@zb4.so-net.ne.jp

#### 熊本会場（九州本部熊本県支部技術士第一次試験・第二次試験合格者合同祝賀会）

日時 2026年6月13日（土）  
CPD・年次大会・研修会：14:00～17:00、合格者祝賀会：17:00～19:00  
会場 KKR ホテル熊本（熊本市中央区千葉城町3-31, TEL：096-355-0121）  
会費 祝賀会 新規合格者：無料、会員・非会員：5,000円  
問合せ及び申込先 熊本県支部事務局 関本郁夫 TEL・FAX：096-322-7167,  
E-mail：sekimoto333-sekimoto333@tkz.bbiq.jp

#### 大分会場（九州本部大分県支部 技術士第一次試験・第二次試験合格者合同祝賀会）

日時 2026年6月20日（土） 年次大会・CPD：15:30～17:40、祝賀会：18:00～20:00  
会場 年次大会・CPD・祝賀会：トキ八会館（大分市府内町2-1-4）  
会費 祝賀会 新合格者：無料、会員・非会員：6,000円～8,000円（予定）  
問合せ及び申込先 大分県支部事務局長 佐藤光雄 TEL：090-2853-3921  
E-mail：m-sato@nts-giken.co.jp

#### 宮崎会場（九州本部宮崎県支部技術士第一次試験・第二次試験合格者合同祝賀会）

日時 2026年5月30日（土） 年次大会：17:00～18:00、祝賀会：18:00～20:00  
会場 ホテル メリージュ（宮崎市橋通東3丁目1-11）  
会費 祝賀会： 新合格者：無料、会員・非会員：4,000円  
問合せ及び申込先 宮崎県支部事務局長：児玉勇人 TEL：090-1427-4370  
E-mail：Kodama-h@kdmc.co.jp

#### 鹿児島会場（九州本部鹿児島県支部 技術士第一次試験・第二次試験合格者合同祝賀会）

日時 2026年5月9日（土） 第50回CPD講演会＝13:30～16:45、祝賀会＝18:00～20:00  
会場 ホテルユニオン（鹿児島市西田2-12-34）  
会費 祝賀会： 新合格者：無料、会員・非会員：5,500円  
問合せ及び申込先 鹿児島県支部事務局：井内祥人 TEL：090-2086-7811  
E-mail：y-iuchi@ymt.bbiq.jp

#### 北九州会場（第一次・第二次試験合格者合同）

日時 2026年11月14日（土） 13:00～第17回公開シンポジウム、17:30～懇親会&合格祝賀会  
詳細未定  
会場 北九州市小倉北区 小倉城周辺  
会費 未定、その他詳細は、後日九州本部HPに掲載  
問合せ及び申込先 北九州地区支部支援委員会：牟田英昭 TEL：080-1745-8396,  
E-mail：muta.san06@gmail.com

## 協 賛 団 体 会 員

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <p>.....[福 岡].....</p> <p>(株)エム・ケー・コンサルタント<br/>         (株)カミナガ<br/>         (株)建設環境研究所九州支社<br/>         (株)建設技術研究所九州支社<br/>         (株)久米総合コンサルタント<br/>         産業開発コンサルタント(株)<br/>         (株)サンコンサル<br/>         ジーアンドエスエンジニアリング株式会社<br/>         第一総合技術(株)<br/>         第一復建(株)<br/>         大成ジオテック(株)<br/>         大和コンサル(株)<br/>         (株)高崎総合コンサルタント<br/>         (株)テクノ<br/>         西鉄シー・イー・コンサルタント(株)<br/>         西日本技術開発(株)<br/>         西日本コントラクト(株)<br/>         (株)西日本測量設計<br/>         日鉄鉱山コンサルタント(株)九州本社<br/>         日本工営(株)福岡支店<br/>         日本地研(株)<br/>         富洋設計(株)九州支社<br/>         パンフィックコンサルタンツ株式会社九州本社<br/>         平和測量設計(株)<br/>         (株)唯設計事務所<br/>         .....[北九州].....<br/>         (株)永大開発コンサルタント<br/>         (株)松尾設計</p> | <p>.....[佐 賀].....</p> <p>朝日テクノ株式会社<br/>         (株)エスジー技術コンサルタント<br/>         九州技術開発(株)<br/>         (株)九州構造設計<br/>         (株)コスモエンジニアリング<br/>         新栄地研(株)<br/>         (株)親和コンサルタント<br/>         精工C&amp;C(株)<br/>         (株)トップコンサルタント<br/>         西日本総合コンサルタント(株)<br/>         日本建設技術(株)<br/>         シマウチエンジニアリング(株)<br/>         .....[長 崎].....<br/>         扇精光コンサルタンツ(株)<br/>         (株)実光測量設計<br/>         大栄開発(株)<br/>         太洋技研(株)<br/>         (有)吉川土木コンサルタント<br/>         .....[熊 本].....<br/>         旭測量設計(株)<br/>         (株)ARIAKE<br/>         (株)九州開発エンジニアリング<br/>         (株)熊本建設コンサルタント<br/>         (株)建設サポートセンター<br/>         (株)興和測量設計<br/>         (株)ヒライ・コンサルタント<br/>         (株)水野建設コンサルタント</p> | <p>.....[大 分].....</p> <p>九建設(株)<br/>         協同エンジニアリング(株)<br/>         ダイエーコンサルタント(株)<br/>         東洋技術(株)<br/>         東洋測量設計(株)<br/>         西日本コンサルタント(株)<br/>         (株)日建コンサルタント<br/>         日進コンサルタント(株)<br/>         松本技術コンサルタント(株)<br/>         .....[宮 崎].....<br/>         (株)アップス<br/>         九州工営(株)<br/>         (株)ケイディエム<br/>         (株)国土開発コンサルタント<br/>         (株)白浜測量設計<br/>         南興測量設計(株)<br/>         (株)西田技術開発コンサルタント<br/>         (株)東九州コンサルタント<br/>         (株)都城技建コンサルタント<br/>         .....[鹿児島].....<br/>         (株)久永コンサルタント<br/>         (株)南日本技術コンサルタンツ<br/>         (株)アジア技術コンサルタンツ<br/>         大福コンサルタント(株)</p> |
|--|--|--|

**次 回 の 予 告**  
 (第148号 令和8年7月)

○2025年度 九州本部第4回CPD

## 編 集 後 記

新年度が始まりました。令和7年度二次試験の合格者が3月に発表され、九州本部・各県支部において祝賀イベントが開催される予定です。

私自身、所属企業の技術士会で幹事を務めていますが、受験者の減少や退職により現役技術士が少しずつ減っていることを実感しています。議論を重ねる中で見えてきたのは、資格取得をゴールにせず技術士として活動を続け、その姿を周囲に伝えることの大切さでした。日々の積み重ねが次世代への刺激となり、同じ志を持つ仲間を増やすことにつながるのではないかと感じています。月刊技術士や技術士だより・九州も、ぜひその発信の場として活用していただければと思います。

令和8年度一次試験の申込は6月に始まります。11月の試験まで十分な準備期間があります。身近な方にも声をかけていただき、共に切磋琢磨し成長していく技術士の輪がさらに広がることを願っています。  
 (倉成)

### 編 集 : 広 報 委 員

- |   |             |
|---|-------------|
| 【福 岡】 久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生<br>原田 正則、松田 敦、倉成 真一 | 【北九州】 宮崎 照美 |
| 【佐 賀】 合志 勉                                  | 【長 崎】 清水 正明 |
| 【大 分】 竹内 一博                                 | 【熊 本】 沼地 英二 |
| 【宮 崎】 神田 稔弘                                 | 【鹿児島】 高畦 博  |

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部  
 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5  
 (博多石川ビル6階D2号室)  
 九州本部： ☎(092)432-4441  
 FAX(092)432-4443  
 E-mail:pekyushu@nifty.com  
 九州本部ホームページURL：  
<http://www.pekyushu.com/>  
 印 刷：株式会社チューエツ